



発行所  
**日刊自動車新聞社**  
 東京都港区芝大門1丁目10番11号  
 購読料 1カ月5343円+税  
 電話 東京(03)5777-2351代表  
 ©日刊自動車新聞社2017

# 16年度新車 2年ぶり 500万台超え

## 登録 2年連続増 下期新型が奏功

「16年度は4%増、下期は10%増で推移した。総量としては大分回復している」として、17年度もプラスに推移しているとの見込みを示した。17年度も「14年度に軽自動車増税前の不正も影響した。全軽自協は「14年度に軽自動車増税前の不正も影響した。全軽自協は」

### 軽は東日本大震災以降最低

「16年度は4%増、下期は10%増で推移した。総量としては大分回復している」として、17年度もプラスに推移しているとの見込みを示した。17年度も「14年度に軽自動車増税前の不正も影響した。全軽自協は」

2016年度の軽自動車販売(登録車、軽自動車合計)は前年度比2.8%増の507万7904台となり、2年ぶりのプラスだった。500万台の大きさを回復するものも2年ぶり。16年度は期初に熊本地震や軽の燃費不正問題などの影響があったが、登録車の販売が上期から下期にかけて増加していった。登録車は同7.5%増の3,357,933台となり、2年連続のプラス。秋以降、自動車メーカー各社による新車攻勢が続いたことが奏功した。軽は同5.1%減の1,719,971台

2016年度の軽自動車販売(登録車、軽自動車合計)は前年度比2.8%増の507万7904台となり、2年ぶりのプラスだった。500万台の大きさを回復するものも2年ぶり。16年度は期初に熊本地震や軽の燃費不正問題などの影響があったが、登録車の販売が上期から下期にかけて増加していった。登録車は同7.5%増の3,357,933台となり、2年連続のプラス。秋以降、自動車メーカー各社による新車攻勢が続いたことが奏功した。軽は同5.1%減の1,719,971台

2016年度の新車販売台数(速報)

登録車	3,357,933	(7.5)
軽自動車	1,719,971	(▲5.1)
総計	5,077,904	(2.8)

順位	ブランド	2016年度	前年同月比増減率%
1	トヨタ	1,586,822	(10.5)
2	ホンダ	710,790	(1.0)
3	スズキ	638,870	(1.4)
4	ダイハツ	582,809	(▲0.7)
5	日産	557,515	(▲2.6)
6	マツダ	202,742	(▲12.7)
7	三菱	163,322	(8.3)
8	いすゞ	84,602	(14.4)
9	日野	79,779	(▲21.7)
10	日産	66,816	(10.2)
11	三菱	49,112	(▲6.0)
12	三菱	44,636	(1.0)
13	UDトラックス	10,460	(▲1.4)

※単位:台、カッコ内は前年同期比増減率%、▲はマイナス

3月の新車販売台数(速報)

登録車	460,654	(13.8)
軽自動車	230,721	(▲0.2)
総計	691,375	(8.7)

順位	ブランド	3月	前年同月比増減率%
1	トヨタ	199,959	(10.8)
2	ホンダ	92,776	(▲2.4)
3	日産	91,541	(19.6)
4	スズキ	84,765	(9.5)
5	ダイハツ	72,676	(▲0.4)
6	マツダ	33,795	(28.3)
7	三菱	23,273	(23.4)
8	いすゞ	15,184	(▲5.8)
9	日野	13,160	(17.6)
10	日産	11,443	(30.8)
11	三菱	5,878	(▲6.8)
12	三菱	5,626	(▲24.5)
13	UDトラックス	1,366	(5.1)

※単位:台、カッコ内は前年同月比増減率%、▲はマイナス

3月の新車販売は前年同月比8.7%増の69万1375台となり、5カ月連続のプラスだった。登録車は同13.8%増の46万654台となり、8カ月連続のプラス。自販連が会員10社に調査したところ、3月は受注もプラス8%程度で推移した。このため「当面はプラス基調が期待できる」としている。軽自動車は同0.2%減の23万721台となり、3カ月連続のマイナスだった。